

学校の運営計画 (4月)		評価 (3月)			
学校の運営方針		「自主的精神に満ち、誠実さと努力に裏付けられた実力を尊ぶ、たくましく心豊かな創造者を育成する」 ー生徒・保護者・地域・教師にとって魅力ある学校づくりー			
昨年度の成果と課題		年度重点目標			
<p><成果> 本校は、県下唯一の普通科全日制単位制高等学校として、個が主体的に教育活動を実践することを念頭におき、多種多様な個々に対して、極め細やかに個別対応してきた。その結果として、集団における規律やマナーについての意識は高く落ち着いた教育活動を実践できている。昨年度は、コロナ禍で、多くの教育活動(特に学校行事)が縮小される中、体育大会や修学旅行を感染予防対策に最大の注意を払いながら実施できたことは、生徒の主体性や新しい取組への挑戦に向けての意識付けには大変有益であった。</p> <p><課題> 新学習指導要領を踏まえ、ICTによる授業形態の確立並びに「思考力・判断力・表現力」を備えた生徒の育成と、生徒の自主性を大切にしながら達成感や新たなチャレンジ意欲が育むことが出来るよう生徒の育成を目指す。さらには、将来に向け夢を持ち、自主的精神や誠実さと努力に裏付けられた実力を尊ぶ、たくましく心豊かな生徒のさらなる育成を目指す。</p>		<p>「主体的・協働的・創造的に学ぶ力」を育てる授業改善(魅力ある授業づくり)と評価の見直し</p> <p>生徒の考えを生かし、参画意識を高める活動場面を作り、学習効果の最大化を図るカリキュラムマネジメントの確立並びに魅力ある学校生活の実施</p> <p>広報活動の充実と地域と連動した深い学び</p> <p>生徒の規範意識の醸成及び人権教育の充実により、生徒が安心して学校生活を送れる学校環境づくり</p>			
		<p>① 全職員が「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、ICTによる授業形態への授業改善を行うため、積極的に相互授業参観等に取り組み、魅力ある授業を展開する。</p> <p>② 評価法と併せて各単元の指導目標を定め、各教科のカリキュラム・マネジメントが円滑に実施できるようにする。</p> <p>③ 新学習指導要領実施に向け評価基準を各教科で作成し、来年度4月に生徒・保護者に向け公表する。</p>			
		<p>① 全領域において、全職員で生徒の主体性を育てるカリキュラム・マネジメントに取り組む。</p> <p>② 授業法と評価法をリンクさせるとともに、授業の質向上を目標とする研修を年2回程度実施する。</p> <p>③ 学校行事の指導目標を明確に示し、達成状況(生徒満足度90%以上)についてカリキュラム・マネジメントを実施する。</p> <p>④ 課外活動・ボランティア活動を充実させる(部活動加入率80%以上、発表会の設定)。</p>			
		<p>① 中学校等への広報活動を充実させる(体験入学年2回以上、中学校訪問年4回以上)。</p> <p>② 地域との連携とボランティア活動等による貢献活動の充実。</p> <p>③ SDGs 未来都市北九州市との連携による「総合的な探究の時間」の実施。</p>			
		<p>① 人権教育に関する講演会及び特設授業を充実させ、生徒の人権感覚を育成する。</p> <p>② 生徒・家庭アンケートによって、いじめの早期発見に努めるとともに、いじめ防止対策を徹底して行い安全安心な環境を整える。</p> <p>③ 教育活動全体でルール・マナーについて考えさせることで、生徒の規範意識をさらに高める。</p>			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価 (3月)	次年度の主な課題	
<教務部>	① 新学習指導要領に対応した指導内容・指導方法を確立と、確かな学力の育成	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めるとともに、「鍛ほめ福岡メソッド」に基づき、チャレンジ意欲を向上させる指導を継続的に行う。	B	A	今年度も引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止の対応のため、十分な教育活動や教育環境の整備を進めることができなかった。しかし、ICTを活用した授業やオンライン授業の推進のため、実施校視察や研究発表に参加し、助言をいただいた。校内でも教育の情報化推進委員会及び研修班と連携し、活用促進に向け前進することができた。
	② 他分野と連携して本校の魅力ある教育内容の構築・情報発信の推進	学習効果の最大化を目指すカリキュラムマネジメントの周知を図るための研修を実施する。	B		
	③ 教務部内各課、各職員相互の連携を密にし、チームとして業務にあたる体制の強化	関係者間のコミュニケーションをとり、目的を共有し、取組の方向性を揃える。	A		
<生徒部>	① 学校行事・生徒会活動・部活動・ボランティア活動などで「やり抜く力」と「豊かな人間性」を培うための場の設定	行事や生徒会活動を生徒主体で実行するための早期企画と、他校との交流による「学び(意見交換・情報交換・知識獲得)」を本校生徒会の活性化につなげる。	B	B	コロナ禍により「共に学ぶ」場の設定が厳しい1年であった。感染防止対策の渦中でもクラスや年次での仲間との交流や他校との交流による学びを実施したい。そのために新しい発想とさらなる工夫によって学校全体での実施にこだわらず、学年ごとなど様々な活動ができるように準備(企画)をしていきたい。教育相談は、生徒への個人面談・アンケート・SCによる相談支援のさらなる充実とともに、継続的な研修により職員の聴く力と対応力を高めしていきたい。
	② 教育相談活動を充実させ、生徒が自らの力で問題解決に挑める力をつけるための支援の充実	定期的なアンケートが形骸化しないように、時期や状況に応じた質問内容等を十分に検討し実施するとともに、いじめに向かない予防的活動の充実を図る。	A		
<進路部>	① 生徒の希望進路実現	学びの基礎診断を活用することで基礎学力の定着度を測り、放課後補習や希望制課外により実践力を養成する。	A	A	生徒の多様な希望進路に応じたきめ細やかな個別指導を実施したい。学びの基礎診断については教務部と連携し、授業と連動させる形で各教科と協力して実施しなくてはならない。コロナ禍で例年とは違う形であったが、インターシップを実施できたことはよかった。参加できなかったオープンキャンパスや看護体験にかかわる進路ガイダンス実施の必要性を感じる。総合的な探究の時間については、SDGsを活用した進路探究を行い、生徒が進路選択を行う際のひとつの機会としたい。
	② キャリア教育の充実	身近な社会問題についてSDGsを軸として探究活動を行い、その活動を通じて社会人基礎力を養成する。	B		
<総務部>	① 積極的広報活動の展開	学校ホームページ、学校紹介ビデオ等を活用し、本校の情報を積極的に発信することで、地域に愛される学校を目指す。	A	A	コロナ禍において、感染拡大防止のため体験入学の中止など、広報機会が奪われ、十分な活動ができなかった。今後は大きな行事(部活動見学会や体験入学)だけに頼らず、来校希望者をいつでも受け入れる体制・職員の意識の改革を目指したい。儀式的行事は、内容を削減しながらも当初の目的を達成できるよう、各担当部署と連携・相談を重ね実施することができた。内容は良い分を残しつつ、改変を積極に行いよりよいものにしていきたい。
	② 特色をふまえた諸行事の企画・運営と資料作成、文書整理	入学式、卒業式等儀式的行事全般にかかる企画、運営を行い、教育活動が円滑に進むように調整する。	A		
<研修班>	① 生徒が主体的・協働的・創造的に学ぶ力を育てる授業づくりに向けた授業研究	教科を超えた相互授業参観と研究授業を実施し、ICT機器を活用して生徒が主体的・協働的・創造的に学ぶ授業を研究する。	A	B	ICT機器を活用する授業について研修を実施したことで、活用方法について周知できる機会となった。一方で、魅力ある授業作りに関する研修が、ICT機器の活用のみとなってしまったことが反省である。次年度は、生徒が主体的・協働的・創造的に学ぶ授業について、多岐にわたる研修内容が必要だと感じている。また、校外研修についても内容の情報公開や実施案内等を周知徹底し、受講を推進し授業改善を目指したい。
	② 職員研修の充実	校外研修についての情報発信や、オンライン研修の環境整備等により、校外研修の受講を推進する。	B		
<人権教育推進委員会>	① 生徒、職員、保護者等、学校に関わる全ての人の権利が尊重される学校の実現	人権教育推進小委員会を定期的に開催し、人権が尊重される学校づくりに努める。	A	A	特別支援が必要な生徒について取り上げ、会議内容の充実を図る。また、修学支援担当教員が学級担任との連携を深めることで、支援が必要な生徒へ一層幅広くかかわることを目指す。
	② 学校にかかわる全ての人が、自らの人権を守るとともに、他人の人権を守ろうとする意識・意欲・態度を養い、それを実践できる力の育成	内容を工夫し充実させることで、生徒たちの心に響く人権教育特設授業を実施する。	A		
<1年次>	① 学習指導：授業規律を基盤とした学習習慣の定着	予習→授業→復習のサイクルを基本とした学力を育成するための環境を整備する。	B	A	年度当初は、規律正しく授業に取り組む姿勢は評価できるものであったが、時間の経過と共に学習意欲の低下や、生活習慣が乱れる生徒が見受けられるようになってきた。将来における目標設定が十分でない生徒が多く、自己実現に向けた主体的な行動に欠けていると感じる。生徒に対しては自己肯定感を育み、将来の人生設計に目を向けさせ、今を大事にする意識を育てていく必要がある。生徒の面談から得た情報から、職員間で課題を共有することで、丁寧な支援ができた。今後も情報の共有を図り、成長を促しつつなるべく粘り強く指導していきたい。次年度は、年次全体としてのリーダーシップやフォローシップを発揮させる場面をより多く設定していきたい。
	② 進路指導：将来を見据えた進路意識の高揚	多様な個々の進路目標に対応したきめ細かい指導をするために個人面談を活用する。	A		
	③ 生徒指導：自らを律し、正しいことを自ら行動できる人間力の向上	基本的な生活習慣の確立とともに人権感覚の育成を図り、互いの試行錯誤を容認しあう雰囲気醸成する。	B		
<2年次>	① 学習指導：学習意欲の喚起と基礎学力の定着、応用力の育成	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を実施しながら、生徒をひきつけ、学力等が身についたと実感できる授業を実践する。	B	B	学習に関しては、指示待ちの受け身的な学習態度から、「勉強したい」という自発的な意識に変える必要がある。そのためには、進路意識を高揚させる取り組みが必要であり、生徒の興味・関心・適性や能力に応じた適切で系統的な進路指導を心掛ける。また特に大学進学を希望している生徒に対しては早い時期から意識づけを行い、放課後セミナーや個別指導を行う。新型コロナウイルスの影響で学校行事が縮小・中止される中、生徒の連帯感や帰属意識を高めることに苦慮する面もあるが、修学旅行を通して芽生え始めたリーダーシップを更に伸ばしていきたいながら、学校の核になれるように指導していきたい。併せて、職員間、および生徒・保護者との信頼関係を深めながら、良好で活気ある年次運営を目指す。
	② 進路指導：進路意識の高揚	個人面談を実施し、生徒理解に努めながら適切なアドバイスを行うことで、自己の将来についてのビジョンを持たせる。	B		
	③ 生徒指導：心身ともに健全な門司大翔館生の育成	人権感覚を身につけ、素直にまわりの助言に耳を傾けられる生徒を育成する。	A		
<3年次>	① 学習指導：確かな学力の育成と自らが目標を定め取り組む自発性の育成	授業規律を徹底し、確かな学力を育成する環境を整える。	B	B	学習指導、進路指導、生徒指導共に生徒の意識の差を小さくすることができず、二極化が進んだことが大きな課題であった。その中でそれぞれの課題に対して年次だけでなく全教員が協力体制をつくり、できる限りの細やかな指導をすることができた。特に進路別・習熟度によるクラス分けにより、進路に対して、学習意欲が高い多くの生徒が、高い目標を掲げて挑戦したことは成果であった。さらには、個々の生徒の指導に対して必要となる最大限の時間をかけ、多くの生徒の進路目標達成に対して丁寧な支援ができた。職員のきめ細やかな指導により教育効果を向上できたと考えているが、今後は「働き方改革の推進」を念頭に置き、業務改善に取り組んでいきたい。
	② 進路指導：自己の将来を見据えた希望進路の実現	多様な進路目標に対応した細やかな指導を通して、生徒の希望進路の実現を目指す。	A		
	③ 生徒指導：主体性・規範意識の更なる向上と最高学年としての意識の醸成	総合的な探究の時間、各種進路活動の時間を通して、自己の将来を見据えた進路を熟慮させる。	B		

A